

JILPT 資料シリーズ

No.146 2015年2月

子育て世帯のウェルビーイング —母親と子どもを中心に—



独立行政法人 労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

子育て世帯のウェルビーイング

—母親と子どもを中心に—

まえがき

子どもは、社会にとって大切な未来の財産である。子どもの健康を損なったり、心身の発達を阻害したりするような子育て期の働き方は、望ましくない。母親本人の働く能力と意欲を最大限に発揮しながらも、子どものウェルビーイングを守れるよう、社会全体が様々な支援制度でサポートすることが、いま求められている。

母親の就業と子どものウェルビーイングとの関係については、未知の部分が多い。例えば、出産後にどのタイミングで仕事に復帰すれば、子どもへの影響を最低限に抑えることができるのか。確かな答えがあれば、育児休業期間の検討が可能となる。母親の就業時間、就業形態と子どものウェルビーイングとの関係についても多くの謎が残っている。

JILPT では、プロジェクト研究「子育て中の女性の就業に関する調査研究」の一環として、2011 年と 2012 年に「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」（略称：「子育て世帯全国調査」）を行った。本資料シリーズは、その再分析の結果を中心に、母親の就業パターンが、母親自身および子どものウェルビーイングにどのような影響を及ぼしているのか等について、総合的に分析したものである。

なお、前段の研究成果として、JILPT 労働政策研究報告書 No.159『子育てと仕事の狭間にいる女性たち—JILPT 子育て世帯全国調査 2011 の再分析』（2013 年 6 月）がある。

本資料シリーズが多くの人々に活用され、今後の女性労働に関わる政策論議に役立てば幸いである。

2015 年 2 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野和夫

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆章
しゅう えんぴ 周 燕飛	JILPT 副主任研究員	序章、第1章 第5章の和訳
おおいし あきこ 大石 亜希子	千葉大学法経学部教授	第2章
あべ あや 阿部 彩	国立社会保障・人口問題研究所部長	第3章
ま きんきん 馬 欣欣	京都大学薬学研究科特定講師	第4章
James Raymo	ウィスコンシン大学 マディソン校社会学部教授	第5章
さかぐち なおふみ 坂口 尚文	公益財団法人家計経済研究所次席研究員	第6章
ないとう ともえ 内藤 朋枝	JILPT 臨時研究協力員	付属資料

「子育て中の女性の就業に関する調査研究」研究会メンバー（除く執筆者）

阿部 正浩 中央大学経済学部教授

永田 有 JILPT 統括研究員

目 次

まえがき

序章 研究の趣旨、方法と主な内容

一子どもにハームレスな子育て期の働き方とはー	1
1 調査研究の背景と目的	1
2 研究方法	2
3 各章の要旨	2
4 政策的インプリケーション	6
第1章 文献サーベイ：母親の就業と子どものウェルビーイング	8
1 背景	8
2 母親の就業が子どものウェルビーイングに影響を及ぼす経路	9
3 因果関係の解明は至難の業	11
(1) 固定効果モデル (Fixed Effect Model)	11
(2) 操作変数法 (Instrument Variable Method)	12
(3) 傾向スコア法 (Propensity Score Matching Analysis)	13
4 母親の就業による影響は総じて限定的	13
5 産後の仕事復帰を支える各国の出産・育児休業制度	15
6 文献サーベイからの示唆	17
第2章 母親の非典型時間帯労働の実態と子どもへの影響	21
1 はじめに	21
2 先行研究	22
(1) 非典型時間帯労働の定義と実態	22
(2) 非典型時間帯労働と子どものウェルビーイング	23
3 なぜ人々は非典型時間帯労働をするのか	24
4 分析枠組み	25
(1) 分析へのアプローチ	25
(2) 使用データ	26
5 分析結果	27
(1) 非典型時間帯労働についての観察事実	27
(2) 非典型時間帯労働の有無と子どもへのインプット	29
(3) 賃金関数の推定結果	31

(4) 非典型時間帯労働をする動機は何か	33
(5) 子どもへの時間的インプット	35
(6) 子どもへの経済的インプット	37
6 考察と政策的インプリケーション	39
第3章 絡み合うリスクと子どもへの影響：婚前妊娠、若年出産、離婚	45
1 問題提起	45
2 先行研究	46
(1) 若年母親の置かれた状況についての分析	46
(2) 若年出産と子どもへの影響についての分析	46
3 データ	48
4 若年出産に至るまでの環境	49
(1) 若年母親の出身家庭状況	49
(2) 婚前妊娠出産（できちゃった婚による出産）	50
5 若年出産後の環境	51
(1) 現在の婚姻状況	51
(2) 学歴	51
(3) 就労状況	52
6 若年母親の子どもの状況	53
7 仮説とモデル	55
(1) 先行研究の整理	55
(2) 仮説	56
(3) モデル	57
8 結果	61
9 まとめ	65
第4章 母親の不本意就業とそのウェルビーイングに与える影響	68
1 はじめに	68
2 先行研究のサーベイと本研究の特徴	69
3 計量分析の方法	72
(1) データ	72
(2) 推定モデル	73
(3) 変数の設定	73
4 クロス集計からみた子育て中の女性の不本意就業とウェルビーイングの実態	79
(1) 母親の不本意就業の状況	79

(2) 本意・不本意な就業状況別にみた母親のウェルビーイング	80
5 母親が不本意就業者になる要因に関する分析結果	82
6 母親の不本意就業がウェルビーイングに与える影響に関する分析結果	87
(1) 母親の不本意就業と生活満足度	87
(2) 母親の不本意就業と精神的健康状態	89
(3) 母親の不本意就業と主観的健康状態	89
7 結論と政策的示唆	94
第5章 シングルマザーの幸福度、健康と経済的ウェルビーイング	100
1 はじめに	100
2 研究の背景	101
(1) 日本のシングルマザー	101
(2) 健康とウェルビーイング	102
3 仮説	103
4 分析方法	104
(1) 標本	104
(2) 変数	105
(3) 実証モデル	107
5 実証結果	108
6 結びにかえて	116
第6章 子育て期の母親に求められている支援策	120
1 はじめに	120
2 データと方法	121
(1) 使用したデータと分析対象	121
(2) アプローチ	121
(3) 支援策の回答傾向	124
3 推計結果	127
4 まとめと課題	132
付属資料 特別集計—父子世帯の現状	137
1 はじめに	137
2 父子世帯の定義（法的及び、統計的定義）	137
3 父子世帯数の推移	137
4 データについて	138

5	父子世帯になった経緯	138
6	収入と貧困	139
	(1) 働き方と収入	139
	(2) 貧困	141
7	暮らし向きの「ゆとり」	142
8	仕事と生活のバランスにおける困難の度合い	144
	(1) 就労時間の調整における困難	144
	(2) 両立困難の自覚	146
9	子育て	148
	(1) 子どもとの触れ合い	148
	(2) 子どもにかかる費用	151
	(3) 子育てへの悩みと子どもの状況	152
10	支援	153
	(1) 育児支援	154
	(2) 自立支援	155
11	まとめ	157